



誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を
持って自ら伸び、育つ教育を目指して

東京都教育施策大綱



令和3年3月

 東京都



【参考論文】

(2022 東京都 A 問題) ※第一回目添削学生論文

全国学力学習状況調査等によると、近年、生徒間で学力や学習意欲に差異があることが指摘されている。こうした課題を改善するため、誰一人取り残さないという指導姿勢で個に応じた指導を行うことが必要であると考え。私は、中学校国語科教員として、以下の2つの取り組みを行う。

一つ目は、ICTを活用した調べ学習である。この活動によって、情報活用能力と学習意欲の向上に繋げていく。これは、レポート作りという単元で行う。まず、調べるにあたって、例えば「人気のスポーツランキング」のような、自分の興味のあるテーマを自由に設定し、人気ベスト10など仮説を立てさせる。次に、級友へ人気スポーツは何か、その理由は何かなどアンケート調査を行うとともにインターネットを活用して小・中・高・大学生などの考えを調査させる。そして、そこから得た結果と自身の仮説を比較して人気の理由など明らかになったことをまとめさせる。最後に調査結果や仮説の是非などについて全体の前で発表させる。

これは、私のボランティア先の中学校で実際に行われた活動である。生徒は、活動の中で意欲的に調査を行い、級友の発表にも関心を持って聞いていた。この活動によって、楽しく意欲的に学習に取り組む態度が養われ、情報活用能力の向上や根拠を持った主張を築く力を身に付けさせる。

二つ目は、級友と協働して課題に取り組む活動である。この活動は、生徒の学力差を踏まえ、生徒間の教え合いを通して、誰一人取り残さない学習に繋げていく。例えば、現代語の文法の問題プリントを用意し授業内に完成させて提出させる。まずは一人で取り組ませる。次に、理解が早い生徒遅い生徒のペアをつくり協働して取り組ませる。協働学習を通して、生徒同士の教え合いや学び合いが行われる。教える側も教わる側もより深い学びになっていくと考えられる。私は適宜机間巡視を行い、問題がわからないが周りに聞けずにいる生徒にはヒントを与えるなどの支援を行う。こうした協働学習によって、互いが助け合い高め合いながら学びを深めることができる。

私は、学習意欲の向上を図り、個に応じた指導を充実させていく。個別最適な学びや協働的な学びを通して生徒同士が楽しく学び合い、分かる授業に努め、誰一人も取り残さない指導を実現させる。

個々の子供に応じたきめ細かい指導を充実させ、学習内容の充実を図る。

PISA2015では、学力の上位層の割合がトップレベルの国や地域よりも低いことが指摘されている。これは、多くの教育現場において講義型の一斉授業が行われていることが原因であると考え。私は、生徒参加型の、主体的・対話的で深い学びを踏まえた授業改善が必須であると考え。私は、中学校数学科の教員として以下の取り組みを行う。(序論)

1.ペアワークを活用した授業

生徒一人ひとりが学習内容を定着させるためには、基礎問題を授業中に確実に習得することが重要である。例えば、連立方程式を学んだあとに、加減法と代入法の練習問題を解かせる。まずは一人で取り組ませる。そして、誰が当てられても、解法を説明できるようにと生徒に伝え、隣の席の人と確認させる。確認が終わったら、それぞれの問題で一人ずつ指名し、黒板に書かせながら解説をしてもらう。このように、となり同士で教え合う時間をとることで、解き方の確認はもちろん、細かいミスも見つけることができる。また、最後に繰り返し全体で解き方を確認することで、学習内容の定着を図る。

2.お助けカードを活用した授業

個々の子供に応じたきめ細かい指導を充実させるためには、生徒一人ひとりのつまずきポイントに合わせた指導を行うことが重要である。例えば、単元の終わりに生徒が苦手な問題を中心にまとめ問題を作成し、取り組ませる。生徒が問題を解いているときに机間巡視を行い、間違えていたり、手が止まっていたりする生徒にあらかじめ作成しておいたお助けカードを渡す。このお助けカードには、生徒がつまずきそうなポイントを何種類か予想しまとめてある。このように、一人ひとりのつまずきに合わせた指導をすることで、学習内容の定着が期待できる。また、カードにまとめることで、個別対応の時間が短縮でき、クラス全員に対してきめ細かい指導を充実させることができる。(本論)

良い授業とは、学ぶ楽しさ、分かる喜びが実感できる授業である。私は、休み時間に、授業で学んだ内容をつかって自分で問題をつくり、友達と出題しあうような生徒を育成したい。常に研究を怠らず、授業こそ命、という使命感を持つ教員になる。(結論)

【問題】さいたま市では「人生100年時代を豊かに生きる『未来を拓くさいたま教育』の推進を掲げ、やりぬく力で「真の学力」を育成することを進めています。あなたはこのことを踏まえ、教師としてどのように取り組んでいきますか。具体的に述べなさい。

技術革新やグローバル化が進む現代社会で豊かに生きるためには、「真の学力」として、やり抜く力を基盤に、思考力・判断力・表現力や課題発見・問題解決能力を育む必要があると考える。やり抜く力とは、継続的に粘り強く他者と協働して物事を遂行する力である。私は思考力・判断力・表現力を育む活動と課題解決力を育む授業づくりに取り組む。以下具体的に述べる。

1 思考力・判断力・表現力を育む活動

互いの違いやよさを認め合える学級では、児童が自分の存在感を感じ、意見を述べやすくなる。私は全教育活動を通して、安心感のある学級づくりに努める。週に1回、朝の会を利用し、学校生活における改善点について「ミニ討論会」を設定する。考えをまとめることで、児童の思考力を育む。また4人程度の小グループにおいて、自分の考えを相手に伝えることで、判断力や表現力を育むことができる。このように継続的に児童の思考力・判断力・表現力を育む。

1 課題解決力を育む授業

私は考えるプロセスを重視した問題解決的な学習を行う。社会科では、資料提示の仕方を工夫することで、児童の疑問を引き出し、学習問題を立てる。例えば平安時代から鎌倉時代、武士の立場が変わることに気づかせるため、2つの絵巻物を提示し、比較することで「武士はどのように力を付けたのか」という児童の疑問を引き出す。その疑問を学習問題として設定し、単元を通して話し合い、解決しながら授業を進める。このように継続的に問題解決の過程を重視することで、児童の課題解決力を育成することができる。

以上のように、児童が継続的に粘り強く、他者と協働して物事をやり遂げる力を育む。そのため「教師力」パワーアップ講座に参加するなど、自らが常に学び続け、児童の「真の学力」の育成に全力を注ぐ覚悟である。

【問題】 鳥根県の将来を担う子どもたちの育成をどう実践していきますか、800字程度で述べなさい

現在、鳥根県では人口の減少や少子高齢化などの課題がある。これらの課題を踏まえ、学校教育においては地域と連携して教育を行い、鳥根の将来を担う人材の育成が必要とされている。このような人材を育成していくために、中学校社会科教員として、以下の2点のことに力を入れて実践していく。

1. ふるさと学習を行う

私は、社会科の地域調査の分野や総合的な学習などを利用し、ふるさと学習に力を入れていく。5～6人のグループで地域（地域の文化や農産物・史跡文化財など何か具体例を述べると大変に説得力のある論文になります）についての調べ学習を行う。生徒が選択肢の中から分野を選び、図書館やICT機器を用いて調べる。その後、現状についての課題を見つけ、具体的な解決策などについて話し合い、グループごとに発表を行う。最後に一人一人がまとめを行う。この活動により、生徒がふるさとに興味・関心（良い）を持つことができる。また、地域の課題解決のために、主体的に考え、行動する力を養うことができる。

2. 博学連携を行う

博物館や図書館など地域施設との連携を行っていく。授業や特別活動の時間において、地域施設を利用し、学習（どんな？具体例を）を行う。また、施設職員の方を学校にお招きして、講演や授業の講師を行っていただく。この活動を通して、生徒が地域とのつながりを実感することができる。また、より多面的で深い学びを実感することができる。加えて、地域と連携して教育を行うことができ、「地域に開かれた教育課程」の実現にもつなげることができる。

これらの活動を通して、ふるさとに目を向け、ふるさとを思い、課題解決のために行動できる人材を育成していく。それにより、鳥根の将来を担う子どもたちの育成を行っていく。これから様々な困難にぶつかることが予想される。しかし、一人で抱えることなく、同僚の教職員や保護者、地域の方々と連携を行いながら、職務に努めていく覚悟である。

※問題に正対するとともに、人口の減少や少子高齢化などの課題をとらえていること、その課題を踏まえ、地域と連携して教育することで将来を担う子供たちを育成していく、という視点は素晴らしいです。

解決策もふるさと学習と博学連携も具体的でよいです。添削にあるように具体例を挙げるとさらに説得力のある素晴らしい論文になります。とても良い論文です。

○令和3年度神奈川県(小中高共通)

主体的・対話的で深い学びの論の展開(例)

神奈川県では、児童や学校等の実態に応じ、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを積極的に活用し、必要な資質・能力を育成する主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいます。このことを踏まえ、あなたは、ICT活用の利点を生かした授業実践にどのように取り組みますか。ICTを活用する意義やねらいとともに、あなたの考えを600字以上825字以下で具体的に述べなさい。

必要な資質・能力とは、確かな学力や体力、道徳性等を身に付けることであり、社会の大きな変動に伴い、保護者や国民の間に学校に対して、こうした資質・能力を確実に育成する質の高い教育を求める声が高まっている。

PISA学力調査から、日本の生徒は思考力や判断力、表現力やICTの活用などに課題があることが明らかになった。私はICTを活用し情報活用能力を高めるとともに主体的・対話的で深い学びの授業を通して確かな学力を身に付けさせ必要な資質・能力を育むため以下の取組を行う。

○情報活用能力を高め、確かな学力を育む取組

児童は誰もが探求心をもっている。探求心は新たな知識を開花させ、学びに向かう力へ導く。学力の基盤となる情報活用能力の向上を確かな学力の育成に位置づけ主体的・対話的で深い学びの授業を展開していく。

「神奈川県の魅力再発見」をテーマとしてとして社会科の授業で行う。まず、5～6人のグループをつくり、それぞれ伝統工芸、農産物、交通、史跡文化財等について学校図書館、パソコン等を活用して調べさせる。調べ学習は探求心を引き出す。次に持ち寄った情報の取捨選択を話し合わせ、1グループ5分間のプレゼンテーション資料をつくり、発表させる。情報の整理は思考力と判断力を養い、発表活動は表現力を養う。生まれ育った地域を学習することで郷土愛を育むことも期待できる。

ICTを活用した個人やグループによる調べ学習、意見交換、発表活動は個別最適な学習や協働的な学習の実現で有効な指導法である。こうした学習を通して知識・技能だけではなく思考力、判断力、表現力、課題発見・問題解決能力等確かな学力を向上させていく。(704字)

情報活用能力⇒課題発見・問題解決能力を支える基盤(文科省)